

IPO銘柄 岐阜造園 (1438・名証2部)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
1438	100株	公募: 40.00万株 売出: 0.00万株 (OA6.00万株)	1,000円~1,150円 (7.6倍)	東海東京証券



東海地区中心に造園緑化工事を展開

■ 事業内容

東海地区を中心に造園緑化工事を手掛ける。事業はランドスケープとガーデンエクステリアの2つに区分され、ランドスケープではパブリックスペースに樹木の緑あふれる憩いの空間を創出。官公庁、民間企業双方の受注を受けており、官公庁からの委託を受けて公園や公共施設などの緑地メンテナンスも行う。ガーデンエクステリアは住宅の周辺環境が対象。住宅メーカーや不動産デベロッパーなどとともに大型分譲地の計画段階からプロジェクトに携わる。一般顧客向けのガーデンエクステリアショールームとして東海、近畿、四国地方に「パインズ」を5店舗展開する。造園緑化事業の単一業態。

■ 特徴

創業は昭和2年。創業者の小栗弥一氏は金華山公園（現岐阜公園）の改修の総指揮をとった人物。地元岐阜では大学や新幹線駅、レジャー施設などで豊富な実績を持つ。上場市場は名証2部への単独上場で、主幹事は東海地盤の東海東京証券が務める。

アナリストコメント

■ 定量分析

17年9月期の連結営業利益は前期見込み比2.8%減の3億1,200万円を計画する。営業利益は16年9月期も減益見込みであり、公共投資減少に伴う需要減などが影響して苦しい状況が続いている。三大都市圏を拠点とし、その近隣への営業エリア拡大などに力を入れていく。

■ 定性分析

初値買いの入りづらい名証2部への単独上場案件で全国的な投資家の注目度は低い。名証2部への単独上場は16年4月の丸八HD以来。丸八HDは初値が11%上昇したものの、高い知名度や保有有価証券の価値、配当利回りが手掛かりとなった特殊な案件で単純な比較はできない。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約5.3億円。ベンチャーキャピタル保有株はない。一般的なIPO案件としては小さい規模だが、地方市場への単独上場案件としては特段の軽量感はない。上場当日の初値買いも限られるため、大きな需給妙味はない。（小泉健太）

■ 類似企業

岐阜造園(1438・名証2部)	予想PER7.6倍 (仮条件上限)
ユニバーサル園芸社 (6061・JASDAQ)	予想PER11.7倍
理研グリーン (9992・JASDAQ)	予想PER12.4倍

■ 引受証券

東海東京証券、SMBC日興証券、SBI証券、エイチ・エス証券、安藤証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
15年9月期(実績)	4,167	7.7	349	33.2	235	67.0	232.0	30.0
16年9月期(会社見込)	3,971	▲4.7	397	13.6	257	9.1	253.3	30.0
17年9月期(会社予想)	3,816	▲3.9	311	▲21.7	209	▲18.7	151.4	35.0

※ 16年5月に株式分割(1株→10株)を実施。15年9月期のEPSおよび配当は遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
14年9月期	101,500	2,522	1,239	61	1,221.0	49.1	11.9
15年9月期	101,500	2,813	1,474	61	1,452.4	52.4	17.4

※ 14年9月期、および15年9月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	小栗 達弘	280,230	27.61
2	小栗 弘	267,530	26.36
3	小栗 勝郎	263,930	26.00
4	岐阜造園社員持株会	72,200	7.11
5	伊藤 俊秀	15,010	1.48
6	舟橋 恵一	15,000	1.48
6	山崎 茂	15,000	1.48
6	山田 準	15,000	1.48
9	川下 保博	10,000	0.99
10	小栗 育子	6,600	0.65
10	小栗 栄一	6,600	0.65
10	小栗 治子	6,600	0.65
10	小栗 正広	6,600	0.65

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	小栗 達弘
専務取締役 設計部長	山田 準
常務取締役 営業部長	小栗 栄一
取締役 管理部担当	舟橋 恵一
取締役 名古屋事業部長	野村 英樹
取締役	川下 保博
取締役	山本 秀樹
常勤監査役	井川 智康
監査役	加藤 孝浩
監査役	川島 典子

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。